八王子囲碁連盟の足跡と課題と展望

八王子囲碁連盟会長　吉澤　實

１．はじめに

現在、八王子囲碁連盟（八碁連）は浅川、恩方、元八王子、中野、大和田、石川、台町、北野、長房、川口、南大沢の 11 地区同好会で構成されており、約 400 名の会員を擁しています。八碁連の目的は規約第３条で「市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康を維持できるよう機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めること」と謳われています。

八碁連は年間を通してたくさんの大会を開催しています。活きいき囲碁地区大会（11 回）、八王子市子ども囲碁大会、八王子市民文化祭囲碁大会、八碁連三段以上囲碁大会、八碁連二段以下囲碁大会、八碁連棋聖大賞囲碁大会、八碁連タイトル囲碁大会、級位認定囲碁大会、16 市対抗囲碁団体戦の合計 19 回開催しています。

さて、八碁連は大会の開催以外にどんな活動をしているのでしょうか、より多くの八王子市民の皆さんに囲碁に親しんでいただきたいと思い、活動の一端をご紹介します。

・「囲碁案内人活動」では、学校囲碁指導員の資格を持つベテランの会員が中心となって、小中学校に行き囲碁を丁寧に教えています。囲碁教室も開いています。

・「初心者教室」では少しだけやったことがある方たちに、八碁連が誇る指導者が正しい打ち方が身に付くように、また囲碁を楽しめるようにと、熱心に教えています。

・「大人入門コース」では囲碁が初めての方たちに、ベテランの会員が基本的な打ち方、考え方が身に付くように、無理なく棋力が向上するように懇切丁寧に教えています。

・「子ども囲碁教室」も東浅川保健福祉センターで行っています。

このように、八碁連は初めての方や子どもたちに囲碁の啓蒙と普及に努めています。

・地区の同好会では「女性教室」を開いているところもあります。

２．八碁連の足跡

30 周年を迎えた八碁連の平成元年創立当時からの歴史を振り返ってみたいと

思います。八碁連の前身である「八王子の碁を楽しむ老人連合」（碁老連）は、平成元年 11 月に創立されました。初代会長の熊崎正一氏は、組織作りに奔走されました。当初の会員資格は、60 歳以上の有段者としていました。市内８か所にあった市民センターに寿囲碁同好会を設立し「八王子の碁を楽しむ老人連合」略称「碁老連」としてスタートしています。この時の会員数は 162 名でした。

平成２年２月に、会報「碁老連ニュース」創刊号が発行されました。熊崎会長自らの手書きで平成 11 年２月 16 日発行の第 109 号まで続きました。30 周年を迎えた今、八碁連の当時の記録を眺めながら、その足跡・記録・資料の収集・保存を伝統として受け継いでいくことが大切との思いを改めて強くしています。

同年３月には中野囲碁同好会が発足し、「碁老連」に参加しています。各地区の寿囲碁同好会が誕生する様子は、年表に記してありますのでこちらも参照してください。平成２年８月に、碁老連囲碁大会第１回が始まりました。この時の参加者は 96 名です。平成３年３月に、浅川大会を皮切りに囲碁地区大会が始まりました。初年度の地区大会参加者は、延べ 373 名でした。平成 29 年度の大会すべての参加者は延べ 1,400 名ほどとなり、会員の関心度は増えています。多くの仲間と知り合えることが参加率を高めている要因と思いますが、日ごろ研鑽した成果を確認でき、昇段・昇級の喜びは格別なものではないでしょうか。

平成３年７月に総合福祉センター（現東浅川保健福祉センター）開設記念祝賀囲碁大会が開催されました。ボケ防止のための啓発囲碁大会の初回大会となりました。同年 10 月碁老連研修会を開設して福祉センターで１期６ケ月間、有段者と級位者各 40 名で、会員対局に加え技術顧問、指導員による指導碁を導入しました。平成４年、坂田栄男名誉本因坊に囲碁界初の「文化功労賞」が与えられました。囲碁が公式に国によって文化と認められた慶事であったと喜んでおります。

平成８年 11 月に南大沢福祉センター開設記念囲碁大会が開催されました。同年 12 月に南大沢研修会を開設、１期６ケ月間、１～４級 18 名、５～10 級 18 名で開始されています。平成 11 年８月に規程改正により会員に級位者 10 級以上を含めてよいこととしました。会員を増やし、裾野を広げるための施策として絶好の改革であったと評価できます。60 歳になり定年で退職した人達は、これから何をしようかと戸惑っていたと思います。各地区の同好会に入会された方々は、囲碁を趣味としてこれからの人生を楽しく送ろうと考えたに違いありません。

平成 14 年６月には子ども囲碁教室を開設しました。子どものときに一度でも囲碁に触れた経験があると、長い間中断していても不思議なほど早く覚えるものなのです。ぜひ一度は碁石に触れてほしいものです。平成 15 年７月に碁老連ホームページを開設しました。碁老連はやがて「八王子の碁を楽しむ活きいき

連合」略称「碁楽連」となりました。平成 18 年４月のことです。碁楽連初代会長の柚木の竹島正義氏は、「老人」を「活きいき」という表現に変えて、楽しむの言葉の響きをよくしました。会報名も、「碁楽連だより」となりました。

平成 19 年４月に碁楽連は八王子囲碁連盟と合併し、八王子市文化連盟に加盟する団体となりました。これによって、同年 11 月の第 57 回八王子市民文化祭囲碁大会は碁楽連が主管することになりました。平成 20 年 11 月に碁楽連創立 20 周年記念行事として、記念式典、記念囲碁大会および祝賀会を開催し、「碁楽連 20 年史」を発刊しています。この年、活きいき地区囲碁大会の七段位者は所属地区大会のみ参加可能としました。出場が制限されましたので賛否両論があったようです。

平成 21 年４月に初心者教室が、また平成 23 年４月には大人入門コースが、それぞれ開設されました。少しでも棋力を向上させて、囲碁の奥深さを知ってもらいたいとの願いが込められています。平成２３年 11 月の第 61 回八王子市民文化祭囲碁大会より、会場を東浅川保健福祉センターに変更しました。

平成 24 年４月に碁楽連は八王子囲碁連盟（八碁連）と改称しました。その時の会長は台町同好会の三上靖宏氏です。その目的は、「八碁連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする」とあります。会報名は「八碁連便り」となります。この年の大きな改革は、会員の年齢制限の撤廃に踏み切ったことにあります。

平成 24 年 10 月に第１回子ども囲碁大会を東浅川保健福祉センターで開催しました。平成 25 年８月に日本棋院八碁連支部が新たに設立されました。八碁連の発展には日本棋院との連携は欠かすことができません。

平成 26 年３月には「八碁連 25 年史」を発刊しております。平成 26 年 10 月に第一回級位認定大会が開催しますが、平成 27 年３月に柚木同好会が八碁連を脱会します。平成 30 年３月昇段規程を改定し四段、五段、六段の昇段が厳しくなりました。この改定により、より一層の精進が必要となりました。

３．課題と展望

八碁連という大きな組織で何が一番の課題となるのか、先ずは、各地区同好会の抱えている問題を把握し全体像をつかむことから始め、そのうえで将来の目標を具体的に定めて八碁連の明るい未来像を見つけたいと考えました。そこで 11 地区同好会長にアンケートの協力をお願いし、各会長の赤裸々な声を聴き、それを基に課題について検討し、解決策を導き出していこうと考えました。　アンケートの質問及び各同好会からの回答の一部を紹介します。

質問１　会員の高齢化が進んでいますので会員の減少が心配です。どのような方法で会員の募集をしていますか。

・会員一人ひとりが、会員の周りにいる碁の好きな友人の加入促進に取り組む事が大切なので、機会あるごとに加入するよう勧めている。
・ありきたりな方法ですが、市民センターに会員募集を行っている。
・昨年度、町内会回覧と市広報で会員募集をした結果、10 名が入会した。
・囲碁教室を開いた。
・市民会館にポスターを張り出したり、会員自身が個人的に声掛けをしている。
・級位者や女性会員が増え、また会として始めた女性教室などにより、「初心者や級位者に優しい」と受け取られているのだと思う。
・各種のタウン誌が発行されているので、これに掲載してもらう。
・過去には NPO 法人八王子市民活動協議会開催の「お父さんお帰りなさいパーティー」で、定年退職された方々に八碁連をアピールしたことがあった。余生をどのように過ごすか考えるうえで、囲碁をアピールするチャンスだと思う。
・八王子市内の小学校、中学校、高等学校の教職員を対象に囲碁の魅力を説明する講演会を開催する。その機会に八碁連の歴史、活動内容を説明する。
・市長、市役所の上級職員との座談会を設け、囲碁の魅力、学び方について八碁連理事及び各同好会長と語り合い、「広報 Hachioji」に掲載する。

質問２　インターネットをどう活用するかを考えていますか。

・八王子市の公式 HP の「囲碁・将棋」に八碁連が紹介されているが、各同好会の紹介を記載することで、各同好会が市民にとって身近に感じられると思う。
・ホームページの紹介（広報を通じてホームページの有無を通知）
・パソコンやスマホの活用を各同好会に取り入れていくには、各同好会から詳しい方を推薦してもらい勉強会を開催することが必要である。

質問３　会員の親睦を図るのに何らかの行事をしていますか。

・年一回、新春囲碁大会を行っている。
・忘年会を実施しているが、参加率は 50%位である。会員の高齢化と市民センターのアクセス環境が悪いことなどが要因と思われる。
・活きいき大会の反省会を兼ねて暑気払い、および第５週の木曜日に会費無料でお茶とお菓子付き付きの囲碁対戦を企画している。
・年２回の同好会内の囲碁大会と大会終了後の慰労会（酒宴）を開いている。

・年３回熱海温泉１泊の囲碁三昧の旅を企画している。（約 10 名参加）
・会員の親睦には特に力を入れている。春と秋に１泊親睦囲碁旅行、納涼囲碁大会終了後慰労会、会員が昇格するたびに祝勝会を行っている。

質問 ４　囲碁を学ぶ子どもの親に囲碁に興味を持ってもらうにはどうすればよいですか。

・ヒカルの碁を子どもが小学生の時見ていて囲碁に興味を持った。たまたま夏休みに親子囲碁教室があるのを八王子広報で知り申し込んだ。小学生限定だったと思うが、中学生まで広げたらよいと考える。
・子ども囲碁教室、住民協の囲碁会に来る子どもの親は関心があり、熱心である。子どもが囲碁をしている場面を見てもらうのがよいと思う。
・学童保育にもっと積極的に囲碁指導（囲碁遊び）を売り込んだ方が良いと思う。
・子ども囲碁教室に保護者の方にも参加してもらったらどうだろうか。
・囲碁が今や文化・教養として東京大学を始め多数の大学の正規の単位科目となっている現状を、囲碁をしている子どもたちを通して親御さんに知っていただくのもよいと思う。
・女性教室をいくつか開設しそこで勧誘する。「女性」と限定した方が入会しやすい。
・若い会員を増やすには、若い女性を増やすことである。「楽しい会」であれば、口コミで会員を連れてきてくれる。パソコンやスマホで囲碁が楽しめることを知らせたい。

質問５　若い人（60 歳以下）の加入がなかなかありませんが、加入してもらう良い手立てがあるか考えていますか。

・土曜日、日曜日の日程に囲碁教室を組めば参加者があると思う。
・「八碁連は老人の集まり」のイメージである。若者を引き付けるには市内の大学・高校の囲碁部の関係者と接触して意見を聞いてみたらよいと思う。
・60 歳以下の市民を対象とした会員募集活動を各同好会ベースで展開する。「広報 Hachioji」ほか、各市民センターの掲示板を活用して広報活動をする。
・大きな会社（市役所、東電など）の囲碁クラブなどへの募集・チラシを送付する。

質問６　八碁連は大会が多くあります。多いことに負担を感じていますか、そ

れとも魅力を感じていますか。

・大会数は少し多いと思う。
・現状に満足している。
・本部の会長の挨拶や競技委員長の注意事項の説明などは、新年度最初の一回のみとし細部は各地区に任せる等、省力化する事も大事かと思う。
・大会開催だけではなく、八碁連会員である他のメリットも必須になっている。
・大会の度に会員に声を掛けているが、ほとんどの人はもういいや、という感じである。
・協力体制があるので現在のところ負担ではない。大会が多いことで昇段・昇級の機会が増えその魅力で会員維持がなっている面がありそう。段・級が甘くなる問題はあるが。

質問７　あなたの同好会独自で研究会を実施していますか。

・定例会の中で指導、相談役を中心に指導や研究会的な場を時々開催している。
・指導者養成の方から年 5･6 回の指導碁を受けている。勉強会は実施している。
・各月の第１日曜日の約２時間を大盤を利用して指導担当による詰碁・手筋等を提示して研修実施している。
・特にしていないが、月一度技術顧問の講習を実施している。

質問８　最後に、テーマ「八碁連の足跡と課題と展望」について何かご意見ご感想等ありましたら一言お願いします。

・高齢化による会員の減少は極めて深刻な問題だ。何らかの対策が必要と思う。
・八王子市の公式ホームページを媒体として、市役所が囲碁の普及活動をしていただくように、具体的な企画提案及び協力をすることで、「八碁連」のプレゼンスを向上できる。
・八碁連の囲碁生涯学習活動が解決の一助になるはず。行政を動かす方策が必要である。

４．おわりに

　囲碁との出会いが私の人生に大きくかかわっています。中学生の時に兄に教えられて以来 65 年間も囲碁に親しんでいます。何よりもパソコンでは味わえない囲碁のすばらしさは人との出会いです。囲碁を通じて知り合えた多くの人たちが宝になっています。

アンケートの回答によると、女性会員を増やすことが八碁連を活性化することにつながります。私の所属する恩方同好会に 5 名の女性会員がいます。会に出席する男性会員は楽しそうです。女性のアイデアを生かして会の活性化を図ることができます。充分幹事なども果たしてくれるはずです。かの紫式部も、清少納言も、かなりの打ち手であったと伝えられています。

結びに、地区同好会の充実が急務であり基本なのです。この課題と取り組むならば、八碁連は安定した発展を遂げていけると信じています。